

Annual Report 2019

2019年度 事業報告書



公益財団法人
川野小児医学奨学財団

ごあいさつ

今般の世界規模での新型コロナウイルス感染症流行という厳しい状況下において、治療や感染予防にご尽力されている皆さまに、心からの感謝と敬意を表します。この状況が大人だけではなく、子どもたちの心身の健康にも大きな影響を与えていることは言うまでもありません。当財団においては、子どもたちの健やかな成長を守るために、何かできることはないか検討を続けてまいりました。そこで、本感染症に苦しむ子どもたちを減らすべく「新型コロナウイルス感染症に関する小児医学研究に対する研究助成」の開始を決定すると共に、医学生が経済的な不安なく小児医学を志すことができるように「現奨学金給付者に対する給付額の増額」を行いました。こういった活動が少しでも小児医学・医療・保健の発展に役立ち、子どもたちの笑顔につながれば嬉しく思います。

さて、設立 30 周年を迎えた昨年度は、管轄行政庁の変更および研究助成事業における募集対象の全国区への拡

大に加え、新規事業「ドクターによる養護教諭のための出前セミナー」の開始など、活動のさらなる充実を図った年となりました。また、従来の事業においても、小児医学研究者や医学生、医療施設に対してしっかりと支援をすることができました。毎年、助成や表彰、奨学金給付をさせていただく度に、研究者、医学生などそれぞれがお持ちの高い志や熱い想いを知り、そういった方々をサポートできることを誇らしく感じています。本書には、数値だけではお伝えできない研究者の声も掲載しておりますので、ご一読いただければ幸いです。



理事長

川野 幸夫

株式会社ヤオコー / 代表取締役会長

数字で振り返る 2019 年度の活動

研究助成



37 名

4,585 万円

奨学金給付



新規 5 名・継続 17 名

1,566 万円

小児医学川野賞



3 名

300 万円

医学会助成



7 件

310 万円

小児医療施設支援



9 件

約 117 万円

ドクターによる
養護教諭のための
出前セミナー



1 件

目次

2019 年度 事業報告

1 設立 30 周年記念式典・懇親会	4
2 研究助成	
交付者一覧	6
交付者インタビュー	8
千葉 文子先生 / 千葉大学大学院医学研究院法医学	
「亡くなった方々が残してくれたメッセージを社会に伝え、予防できる死を減らしたい」	
これまでの実績	9
3 奨学金給付	
給付者大学一覧	10
奨学生証書授与式	11
これまでの実績	12
4 小児医学川野賞	
贈呈されるトロフィーについて	13
受賞者コメント	14
川井 正信先生 / 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門消化器・内分泌科	
「時間生物学を基盤とする成長障害発症機構の解明」	
武内 俊樹先生 / 慶應義塾大学医学部小児科	
「武内・小嶋症候群を含む新規ヒト 4 疾患の発見と治療法の開発に向けた病態解明」	
頼藤 貴志先生 / 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野	
「疫学方法論を用いた乳幼児および小児諸疾患における環境保健学的研究」	
これまでの実績	15
5 医学会助成	
助成先一覧	16
これまでの実績	17
6 小児医療施設支援	
助成先一覧	18
これまでの実績	19
7 ドクターによる	
養護教諭のための出前セミナー	
活動報告	20

2020 年度 経過報告

1 研究助成	
交付者一覧	22
2 医学会助成	
助成先一覧	24
3 ドクターによる	
養護教諭のための出前セミナー	
実施予定一覧	25
4 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う	
対応について	
新型コロナウイルス感染症に関する研究助成の実施／	
奨学金継続給付者への支援強化	26
5 2020 年度中の募集について	
募集概要	27
ご寄附のお願い	28
役員・評議員・選考委員一覧	29

2019 年度 | 事業報告

Annual Report 2019

1

設立30周年記念式典・懇親会



当財団設立30周年を記念し、2019年9月7日(土)に都内ホテルにて式典・懇親会を開催しました。当日は、歴代の川野賞受賞者や研究助成金交付者、奨学生、選考委員、またご寄附いただいている皆さまなど約200名の関係者各位に出席いただきました。

式典では、これまで当財団を支えてくださった皆さまに感謝申し上げるとともに、共に歴史を作ってくださった方々からも当財団への想いなどをお話いただきました。最後に、これから進むべき方向性や具体的な活動予定についてご報告しました。

小児医学に関わる医師や研究者が一堂に会す機会ということもあり、懇親会ではご出席者それぞれが近況や取り組んでいる研究などについて情報交換をされ、親睦を深めていました。

設立30周年記念誌

これまでのあゆみを振り返り、その軌跡を未来につなげていくため、「設立30周年記念誌」を作成し、式典ご出席者にお渡ししました。設立背景や活動実績、また今後の展望を読者の皆さまにご理解いただけるよう、「30年のあゆみ」「データで振り返る30年」「これからの財団」の3部構成となっています。当財団ウェブサイトからもご覧いただけます。

記念誌の詳細はこちら → <https://kawanozaidan.or.jp/report/>



ヒストリーボード

会場の入り口に長さ14メートルのパネルを設置しました。このパネルには、これまで当財団をサポートしてくださった方々や、川野賞受賞者、助成金交付者など、当財団の歴史を共に築いてくださった計703名のお名前が書かれています。多くのご出席者をご自身のお名前の前で記念撮影をされていました。



メッセージフラッグ

当財団から感謝をお伝えするだけではなく、ご出席者お一人おひとりからのお言葉もしっかり受け止めたい。そんな思いから、メッセージをお書きいただけるフラッグを会場に用意しました。フラッグには当財団の支援に対するお礼の言葉やそれぞれの志などが綴られています。



設立30周年記念式典・懇親会の様子



研究助成

交付者一覧

2019年度は一般枠 51 名・若手枠 34 名の応募があり、2019 年 3 月 9 日に開催した選考委員会の結果、一般枠 19 名・若手枠 18 名の計 37 名の研究者に総額 45,850 千円の助成金を交付しました。なお、2020 年 3 月 14 日に開催を予定しておりました助成研究成果発表会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中止となりました。研究成果は抄録集にして関係者各位に配布しています。

[一般枠 19 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
川崎 朋範	埼玉医科大学国際医療センター病理診断科 「希少がん 骨軟部肉腫における増殖・転移メカニズムの解明に基づく血小板をターゲットにした新規治療法の開発」	3,000
菅沼 栄介	埼玉県立小児医療センター感染免疫アレルギー科 「川崎病の冠動脈瘤における狭窄メカニズムの解明と新規治療法の開発」	2,500
山高 篤行	順天堂大学医学部小児外科学講座 「オルガノイド移植とハイブリッド腸作成による難治小児疾患外科治療開発」	2,400
古川 雄祐	自治医科大学分子病態治療研究センター・幹細胞制御研究部 「中枢神経白血病に対するエピジェネティク療法の開発」	2,400
嶋田 明	岡山大学病院小児血液・腫瘍科 「再発小児急性白血病の新たな分子標的薬の探索」	2,000
郷 勇人	公立大学法人福島県立医科大学総合周産期母子医療センター 「新生児慢性肺疾患における miR-21 の役割解明と臨床応用に関する研究」	1,500
山中 岳	東京医科大学小児科学分野 「てんかん性脳症に対する末梢と中枢からの免疫学的アプローチ 脳内炎症伝播の司令塔ペリサイトから挑む」	1,500
白戸 憲也	国立感染症研究所ウイルス第3部 「RS ウイルス迅速抗原検出キットに代わる迅速遺伝子検出キットの開発」	1,500
井上 健	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第二部 「先天性大脳白質形成不全症の遺伝子治療の実用化を目指した新規 AAV デリバリー技術の開発」	1,500
福岡 講平	埼玉県立小児医療センター血液腫瘍科 「小児脳腫瘍に対する網羅的メチル化解析」	1,150

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
山崎 小百合	名古屋市立大学大学院医学研究科免疫学分野 「難治性アレルギーの治療・予防を目指した制御性 T 細胞による新規免疫調節機構の解明」	1,500
吉田 都美	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻薬剤疫学分野 「母体肥満および乳幼児期の肥満が青年期の肥満に与える影響の解明 - ライフコースデータによる疫学的検討」	1,500
松尾 洋孝	防衛医科大学校分子生体制御学講座 「消化器疾患のマーカーとなる尿酸値の検証：小腸上皮障害マーカーの探索と評価」	1,500
高澤 慎也	群馬県立小児医療センター小児外科 「小児慢性機能性便秘症患者に対する食事療法の効果と腸内細菌叢の変化に関する研究」	1,500
関 満	自治医科大学小児科 「川崎病病態形成における血小板活性化因子の関与と治療への応用」	1,500
植松 崇之	北里大学メディカルセンター研究部門バイオメディカルラボラトリー 「ヒト iPS 細胞由来脳オルガノイドを用いた化合物スクリーニングによるウイルス性脳炎治療薬の探索」	1,500
菊池 透	埼玉医科大学病院小児科 「小児期発症 1 型糖尿病の治療・予後改善のための多施設共同研究 (第 5 コホート)」	1,500
渡辺 栄一郎	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻小児医学講座小児外科学分野 「便プロテオーム解析を用いた壊死性腸炎と未熟児腸内環境の病態解明に関する研究」	1,500
向井 淳	筑波大学プレジジョン・メディスン開発研究センター 「神経発達障害の病態解明と治療薬の探索」	1,500
小 計		32,950

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

[若手枠 18 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
小幡 裕希	国立研究開発法人国立がん研究センター研究所がん分化制御解析分野 「急性骨髄性白血病・マスト細胞腫における Kit・FIt3 チロシキナーゼの異常局在の分子メカニズム～オルガネラから発信されるがんシグナル、その理解に基づいた新規治療法の開発～」	1,000
大和 玄季	群馬県立小児医療センター血液腫瘍科 「クリニカルシーケンスに向けた小児急性骨髄性白血病の遺伝子パネル解析」	1,000
芦名 満理子	神戸大学医学部附属病院小児科 「ヒト胎盤の網羅的 DNA メチル化解析による胎児発育不全の責任遺伝子の同定」	1,000
石渡 遼	防衛医科大学校生理学講座 「臍帯由来 G-CSF の機能解析」	800
渡邊 健太郎	東京大学医学部小児科 「難治性神経芽腫に対する多相性オミックス解析を利用した新規治療法の創出」	800
田中 智子	公益財団法人東京都医学総合研究所脳発達・神経再生研究分野神経細胞分化プロジェクト 「DNA 修復異常により引き起こされる発達障害の発症メカニズムの解明」	800
濱 弘太郎	帝京大学薬学部 「脂質メタボローム解析による副腎白質ジストロフィーの病態発症機序と新規バイオマーカーの開発」	800
榎屋 隆太	鹿児島大学病院小児診療センター小児外科 「母親由来キメラ細胞による胆道閉鎖症の免疫学的病因解明と発症予防の可能性探索」	800
藤雄木 亨真	東京大学大学院医学系研究科生殖発達加齢専攻小児外科学教室 「全国的データベースを利用した小児希少疾患に関する研究 - National Clinical Database-Pediatrics による術後成績からみる小児の嚢胞性肺疾患に対する手術至適時期、並びに手術リスクの検討」	800
阿部 百合子	日本大学医学部小児科学系小児科学分野 「小児メタボリックシンドロームの正確な内臓脂肪評価と高リスク脂質異常の検出」	800

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
千葉 文子	千葉大学附属法医学教育研究センター法医学 「子どもの死因究明と、得られる情報の社会還元に関する研究」	800
青木 悠太	昭和大学発達障害医療研究所 「発達障害当事者において生物学的特性が均一な集団を動画から予測する」	500
立花 奈緒	東京都立小児総合医療センター消化器科 「炎症性腸疾患の新たなバイオマーカー (尿中ロイシンリッチα2 グリコプロテイン) の有用性に関する研究」	500
林 健太郎	埼玉県立小児医療センター外科 「経肛門超音波を用いた肛門筋群の 3D 解析：直腸肛門奇形およびヒルシュスプルング病の術前・術後評価および合併症の解明」	500
木内 有希	東京女子医科大学生理学 (神経生理学分野) 「発達期神経回路構築過程の分子基盤の解明 - 発達障害の発症メカニズムに解明を目指した基礎研究 -」	500
酒井 純	埼玉医科大学医学部感染症科・感染制御科 「重症心身障害児の尿中の細菌叢解析と薬剤耐性を引き起こす extended-spectrum β-lactamase 産生菌の定着状況の解明」	500
萩原 真一郎	大阪母子医療センター消化器・内分泌科 「小児潰瘍性大腸炎における尿中 PGE-MUM の有用性の検討」	500
榊原 菜々	神戸大学医学部附属病院小児科 「Dent 病および Lowe 症候群の病態解明および新規治療法の開発」	500
小 計		12,900

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

交付者インタビュー

亡くなった方々が残してくれたメッセージを社会に伝え、予防できる死を減らしたい



千葉 文子先生
Fumiko Chiba
千葉大学大学院医学研究院法医学

1. 研究テーマを教えてください。

「子どもの死因究明と、得られる情報の社会還元に関する研究」です。

2. 予防できる子どもの死を減らすための研究とお聞きしました。具体的に教えていただけますか。

私が発起人の一人となり「千葉県子どもの死因究明等の推進に関する研究会」を始めました。虐待による死亡の再発防止は重要な社会問題になっていますが、不慮の事故で亡くなった子どもや理由が分からず突然亡くなった子どもの中にも死を未然に防ぐことができたかもしれない場合があります。この会では、同じことが起きないよう、法医学者と県内の小児科医、警察、児童相談所の職員などの多職種が集まり、実際にあった死亡事例をもとに、亡くなった時の状況や直接的な死因を共有したり、似たような死亡事例を予防するためにそれぞれの立場から考えられる対策などを話し合ったりしています。

3. なぜこの研究会を始めようと思ったのですか？

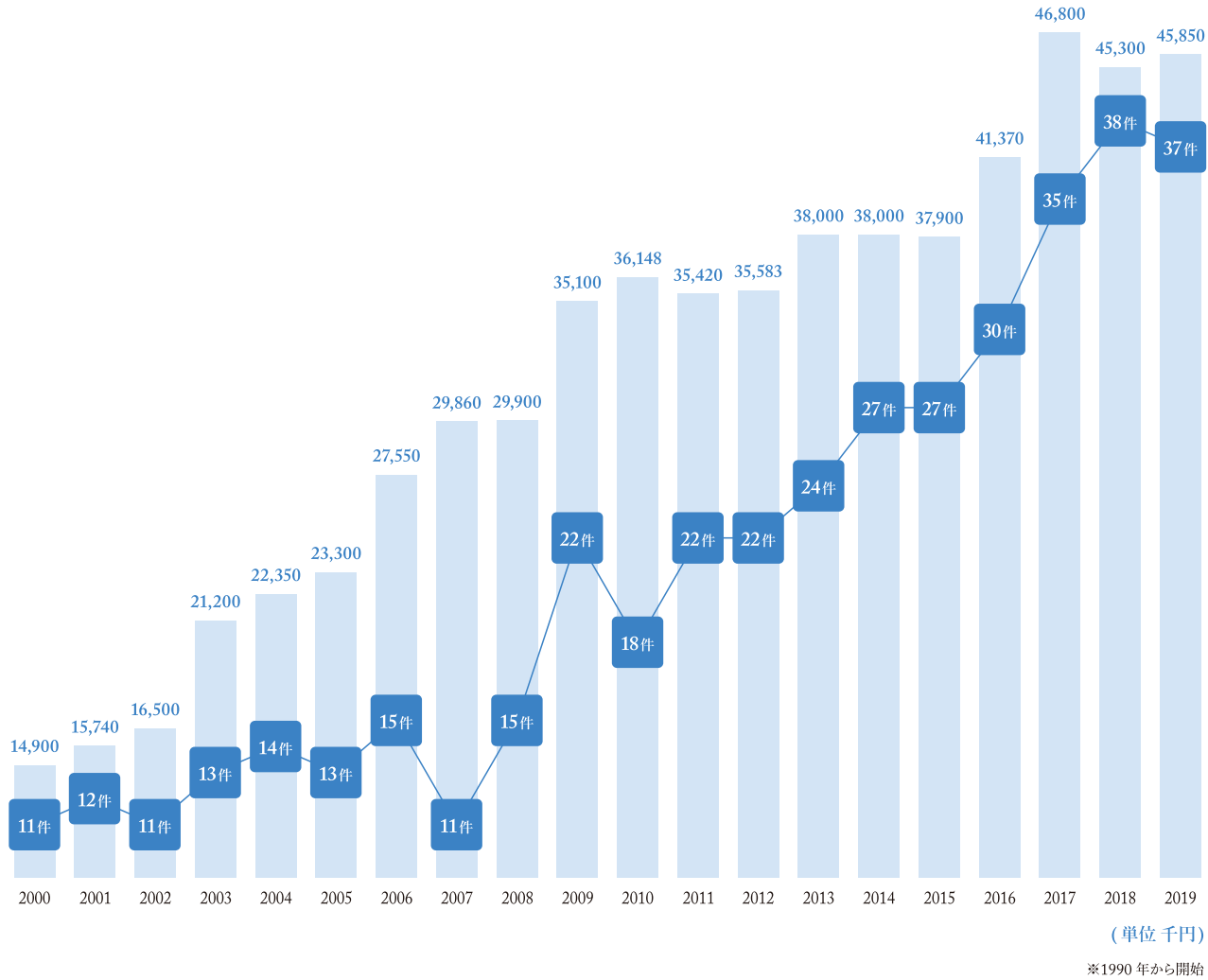
私たち法医学者の持っている情報が十分に活かされていない、というもどかしさを感じたことがきっかけでした。例え

ば、自宅で就寝中、突然心肺停止になり病院に搬送され、色々な検査をしたけれど、結局原因不明で亡くなってしまった乳児がいたとします。このように、殺人事件でなくても死因が分からない状況になると、警察から法医学者に解剖の依頼がくることがあります。解剖の結果、仮に死因は生まれつき心臓に異常があったことだと判明した場合でも、結果は警察に伝えることになっており、たとえそのお子さんを診た医師でもその結果が知らされることは通常ありません。そして、このケースはこれでおしまいになってしまいます。ですが、こういった情報を医師にフィードバックすれば、次の診療に何か活かすことができるかもしれません。そういった考えから、この研究会を始めようと思うようになりました。

4. 今後のビジョンを教えてください。

法医学者の目標は死因を突き止めるだけではなく、それによって人々の安全や権利を守ることだと思っています。今行っている研究会で得られた情報を社会に還元することで、将来的に予防できる死を減らすことができると考えています。日本では制度上の問題もあり、今は、私たち法医学者の持つ情報は非常に限られたところにしか届いていません。私たちはその状況を少しずつ変えたいと思っています。研究会を重ねるうちに、病院の医師へフィードバックするだけではなく、医療機関や行政機関を含めた多角的な立場から検討し、互いに学ぶことの必要性を感じています。きちんと死因を調べ、予防できる余地があるものはその方法を検討し、適切な形で社会に還元することで、子どもたちの未来に役立てていきたいと思っています。

これまでの実績



3 奨学金給付

給付者大学一覧

2019年度は13名の応募があり、選考委員による審査の結果、新規5名の医学生に対する給付を決定しました。
継続17名と併せて計22名の医学生に対して、総額15,660千円の奨学金を給付しました。

〔新規給付5名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
慶應義塾大学	1	720
島根大学	1	720
東京医科歯科大学	1	720
東北大学	1	540
福島県立医科大学	1	720
小計		3,420

〔継続給付17名〕

大学名	人数	年間給付額(千円)
秋田大学	3	2,160
岡山大学	1	720
群馬大学	1	720
慶應義塾大学	2	1,440
島根大学	3	2,160
千葉大学	1	720
東北大学	1	720
東北医科薬科大学	1	720
獨協医科大学	1	720
名古屋大学	1	720
福島県立医科大学	2	1,440
小計		12,240

※五十音順

奨学生証書授与式

奨学金給付事業が経済的な支援にとどまらず、奨学生の勉強や研究、卒業後のキャリア設計に役立つよう、2018年度より奨学生証書授与式を実施しています。2019年8月4日(日)には都内ホテルにて2回目となる授与式を開催いたしました。

当日の様子

全国から集まった13名の奨学生に加え、理事や監事、選考委員など全23名が出席しました。授与式では理事長から奨学生一人ひとりに、楯の贈呈が行われました。また、医学界で活躍する選考委員より「医師とは何か」や「広い世界を見ることの大切さ」などの話があり、皆引き締まった表情を見せていました。その後の懇親会では、部活や趣味、勉強など、様々な話題に花が咲き、親睦を深めました。

奨学生の声

小林 裕一さん Yuichi Kobayashi
東京医科歯科大学医学部医学科

奨学生証書授与式は厳かな雰囲気で行われ、今後も奨学生にふさわしい行動をしようと気が引き締められました。懇親会では財団の関係者の方々と話す機会があり、大変勉強になりました。また、奨学生の同期や先輩方と、情報交換や会話を楽しむことができました。ここで知り合えた方々と、今後も交流を続けたいと思います。

森 裕也さん Yuya Mori
秋田大学医学部医学科

毎年この奨学生証書授与式に参加しています。選考委員の先生方のお話を聞くことや、奨学生の方々が楯を贈られている姿を見ることで、医師を志すきっかけや目標とする医師像を再認識することができ、身が引き締まります。懇親会では他大学の学生と親睦を深めることができ、大変貴重な交流の場となっています。

奨学生に贈呈された楯



鎌田 直樹さん Naoki Kamata
名古屋大学医学部医学科

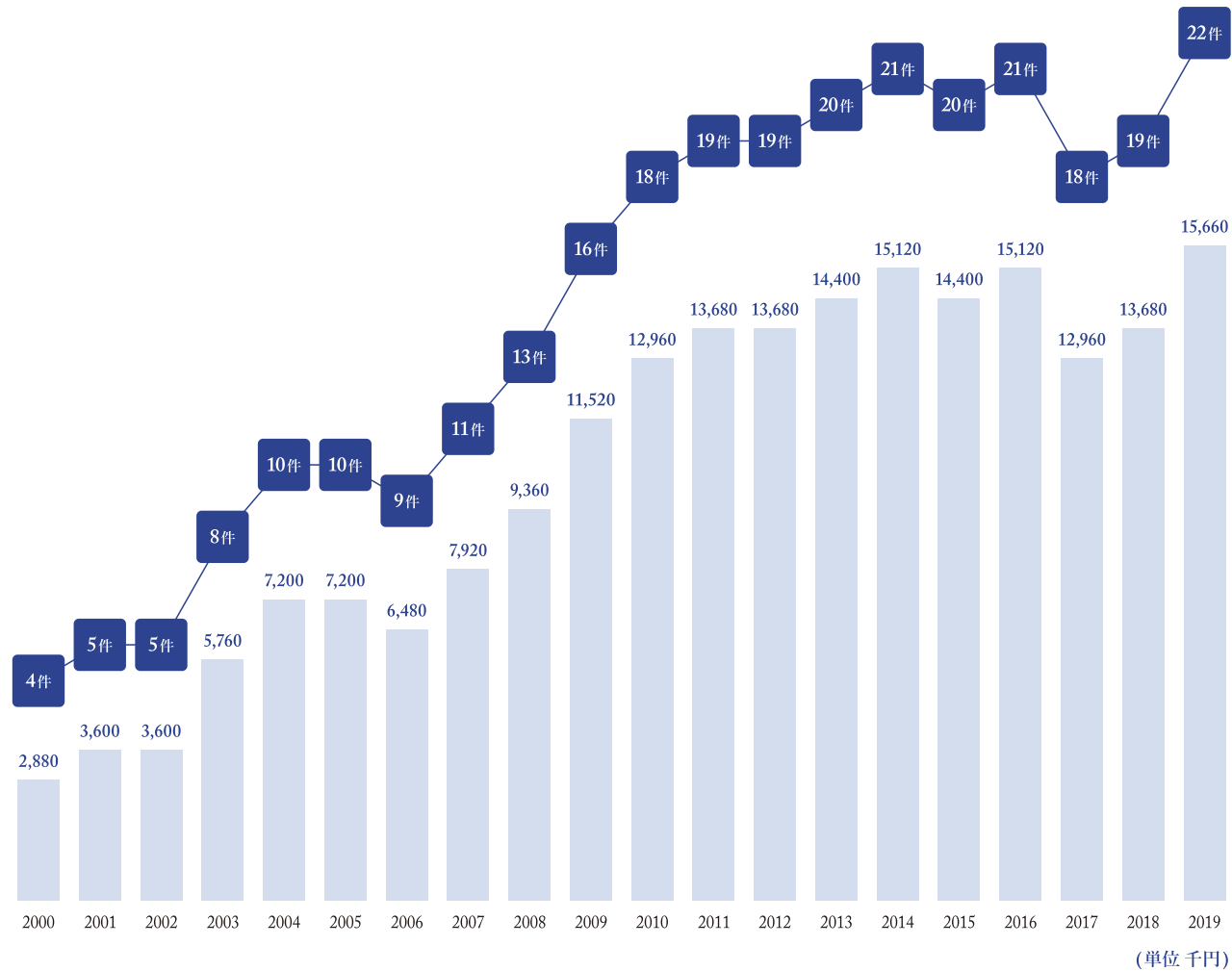
初めて出席した奨学生証書授与式から1年経ち、改めて理事長や選考委員の方々のお話を伺い、良き医師になるためには、様々な立場の人と接し広い視野を持つ事が大切だと身に染みて分かりました。懇親会では志を共にする他大学の医学生と交流を持つことができ、その後も皆で連絡を取りあうなど、大変貴重な機会となりました。

2019年度 奨学生証書授与式・懇親会の様子



4 小児医学川野賞

これまでの実績



※1990年から貸与型を開始、2010年から給付型を開始し、2015年からは給付型のみ

当財団設立30周年を迎えた2019年度に、募集分野を基礎医学・臨床医学・社会医学の3分野に拡大し、推薦を受け付けました。基礎医学4名・臨床医学9名・社会医学4名の応募があり、2019年12月14日(土)に開催した選考委員会の結果、基礎医学では大阪母子医療センター 川井正信先生、臨床医学では慶應義塾大学 武内俊樹先生、社会医学では岡山大学大学院 頼藤貴志先生の3名を2019年度小児医学川野賞の受賞者に決定しました。

贈呈されるトロフィーについて

これまで受賞者にはメダルの贈呈を行っていましたが、設立30周年を迎えた2019年度よりトロフィーを贈呈しています。このトロフィーは幾重にも重なった線で構成されており、受賞者のこれまでの研究一つひとつの積み重ねが大きな成果として現れていることを表現しています。



幾重にも重なった線



分野により異なる色のトロフィー

受賞者コメント

基礎医学分野



川井 正信先生
Masanobu Kawai

大阪母子医療センター研究所
骨発育疾患研究部門消化器・内分泌科

テーマ

時間生物学を基盤とする
成長障害発症機構の解明

ご研究内容

私たちの研究では、生物時計の乱れが子どもの成長に与える影響を分子メカニズムから明らかにしようとしています。特に、骨の成長に必要なカルシウム・リン代謝、そして骨量に与える影響について研究しています。

臨床医学分野



武内 俊樹先生
Toshiki Takenouchi

慶應義塾大学医学部小児科

テーマ

武内・小崎症候群を含む新規ヒト4疾患の
発見と治療法の開発に向けた病態解明

ご研究内容

医療技術の進んだ今でも診断名がつけられない患者さんが数多くいらっしゃいます。そういった未診断疾患を持つ子どもたちに対して、半定量的な表現型記載や網羅的遺伝子解析、遺伝子改変技術など様々なアプローチを組み合わせ、その診断名を明確にしています。

社会医学分野



頼藤 貴志先生
Takashi Yorifuji

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野

テーマ

疫学方法論を用いた乳幼児および
小児諸疾患における環境保健学的研究

ご研究内容

母体・生活・医療などの環境要因は、子どもの健康や成長、発達に大きく影響を与えます。また、その影響は一生続くという特徴があります。そこで、環境要因がもたらす子どもへの影響について厚生労働省が行う21世紀出生児縦断調査などを利用して疫学研究を行っています。

受賞コメント

私は、小児科医として成長障害に興味を持ち、生活リズムの乱れが子どもの成長に与える影響の分子基盤を解明すべく研究を行ってきました。その研究成果が、小児医学川野賞という形で評価されたことを光栄に思います。今回の受賞を励みに、今後も小児医学の発展に貢献できるように努力してまいる所存です。最後に、川野小児医学奨学財団の関係者にお礼申し上げます。

受賞コメント

今回、伝統ある川野賞をいただき、誠に光栄に存じます。私は、小児科医として、臨床現場で診断のつかない患者さんの役に立ちたいという思いから、研究を行ってまいりました。その結果、複数の新規ヒト疾患を確立という貴重な経験をさせていただき、多くのことを学ばせていただきました。今後も研鑽を重ね、小児医学の進歩に貢献し、社会全体に還元したいと存じます。

受賞コメント

名誉ある賞を頂戴しまして、ありがとうございます。この度の受賞は、私に社会医学分野への関心を抱かせてくださった胎児性水俣病患者の皆さん、臨床の現場で出会った患者さん、研究でお世話になった方々のお陰です。多くの方に感謝したいと思います。今後も、疫学方法論を利用し、国内外の小児の健康維持・疾病予防・治療開発に貢献できたらと考えております。

Interview

これまでの実績

回／年度	氏名／所属機関		
第1回／2000年度	奥山 眞紀子／埼玉県立小児医療センター		
回／年度	小児基礎医学	小児臨床・社会医学	
第2回／2001年度	林 泰秀／東京大学医学部小児科 長谷川 奉延／慶應義塾大学医学部小児科	平岡 政弘／福井医科大学小児科	
第3回／2002年度	廣瀬 伸一／福岡大学医学部小児科	大井 静雄／東京慈恵会医科大学脳神経外科講座	
第4回／2003年度	緒方 勤／国立成育医療センター研究所	吉川 徳茂／和歌山県立医科大学小児科	
第5回／2004年度	斎藤 博久／国立成育医療センター研究所	加治 正行／静岡県立こども病院	
第6回／2005年度	伏木 信次／京都府立医科大学大学院医学研究科		
第7回／2006年度	大橋 十也／東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所	夏目 長門／愛知学院大学歯学部口唇口蓋裂センター	
第8回／2007年度	峯岸 克行／東京医科歯科大学大学院免疫アレルギー学 塚原 宏一／福井大学医学部付属病院小児科	山高 篤行／順天堂大学医学部小児外科	
第9回／2008年度	金子 英雄／岐阜大学大学院医学系研究科医学部地域医療医学センター	小崎 健次郎／慶應義塾大学医学部小児科学教室	
第10回／2009年度	深尾 敏幸／岐阜大学大学院医学系研究科小児病態学	高橋 幸利／国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	
第11回／2010年度	先崎 秀明／埼玉医科大学国際医療センター	海老澤 元宏／国立病院機構相模原病院臨床研究センター	
第12回／2011年度	下澤 伸行／岐阜大学生命科学総合研究支援センター	川崎 幸彦／福島県立医科大学小児科	
第13回／2012年度	福田 誠司／島根大学医学部小児科学	加藤 光広／山形大学医学部付属病院小児科	
第14回／2013年度	滝田 順子／東京大学大学院医学研究科生殖・発達・加齢医学小児科	浜野 晋一郎／埼玉県立小児医療センター	
第15回／2014年度	滝沢 琢己／群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野	高橋 謙造／帝京大学大学院公衆衛生学研究科	
第16回／2015年度	田島 敏広／自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科	家入 里志／鹿児島大学学術研究院歯学域医学系小児外科学分野	
第17回／2016年度	北中 幸子／東京大学大学院医学系研究科小児医学講座	野津 寛大／神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野	
第18回／2017年度	竹田 誠／国立感染症研究所ウイルス第三部 深見 真紀／研究開発法人国立成育医療研究センター分子内分泌研究部	森岡 一朗／神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 こども急性疾患学部門	
第19回／2018年度	道上 敏美／地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター研究所 環境影響部門	酒井 康成／九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野（小児科学）	
回／年度	小児基礎医学	小児臨床医学	小児社会医学
第20回／2019年度	川井 正信／大阪母子医療センター研究所 骨発育疾患研究部門消化器・内分泌科	武内 俊樹／慶應義塾大学医学部小児科	頼藤 貴志／岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻疫学・衛生学分野

※敬称略・所属機関は受賞時の機関

5 医学会助成

助成先一覧

2019年度は9件の応募があり、選考委員による審査の結果、7件の医学会に対して総額3,100千円の助成金を交付しました。

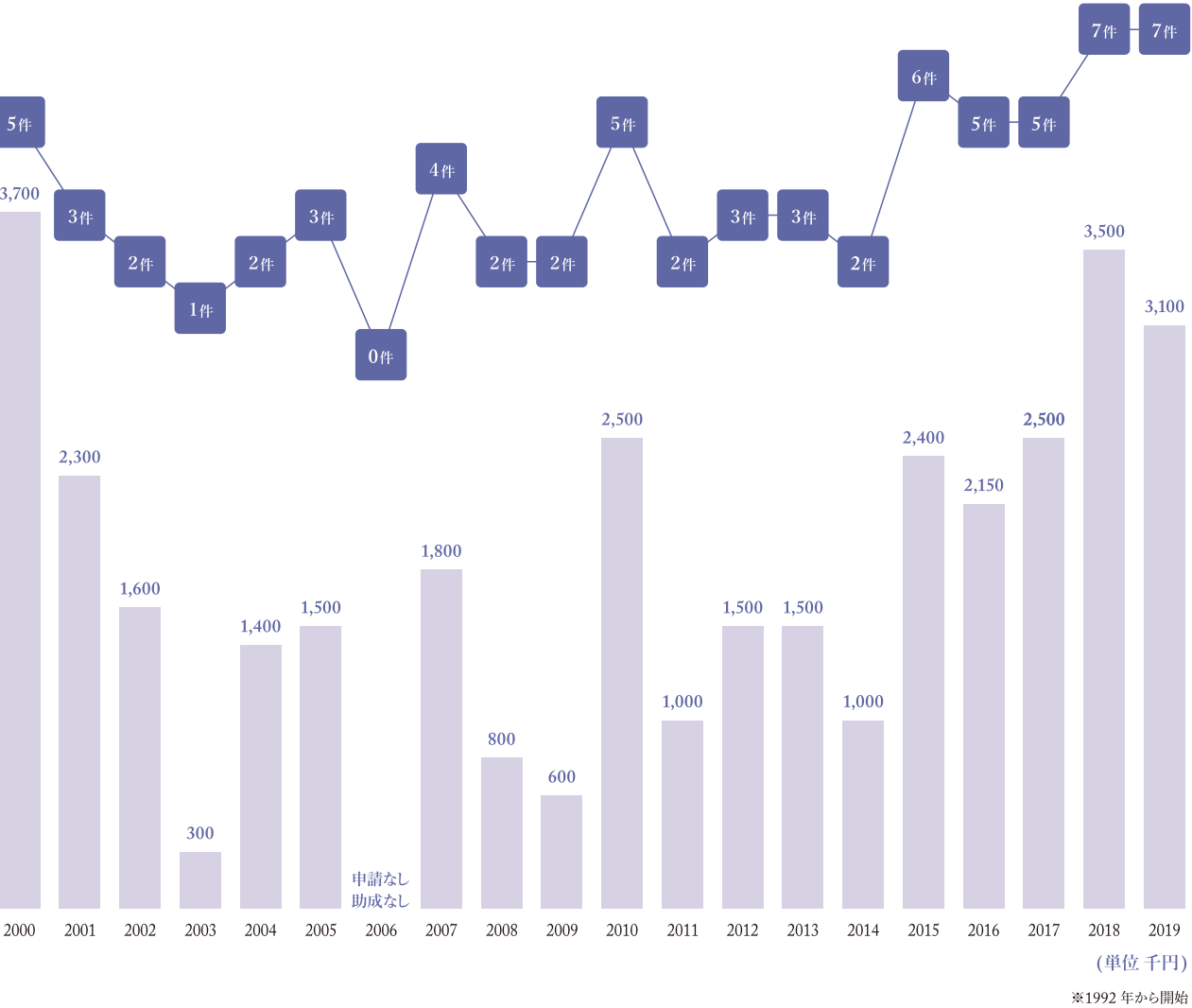
学会名	開催日	開催場所	交付額(千円)
第56回九州外科学会・第56回九州小児外科学会・第55回九州内分泌外科学会	2019年 5月17日～18日	鹿児島県 市町村自治会館	300
第66回日本小児保健協会学術集会	2019年 6月20日～22日	タワーホール船堀	500
第33回日本小児救急医学会学術集会	2019年 6月21日～22日	大宮ソニックシティ	500
第19回新生児栄養フォーラム	2019年 6月22日～23日	三井住友銀行東館 ライジング・スクエア内 S M B Cホール	500
第25回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会	2019年 7月15日	中野セントラルパーク カンファレンス	500
第26回日本小児高血圧研究会	2019年 9月14日～15日	東京慈恵会医科大学 講堂	300
第31回 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会	2020年 1月23日～25日	沖縄かりゆし アーバンリゾート・ナハ	500
合計			3,100

※開催日順

第66回日本小児保健協会学術集会の様子



これまでの実績



6 小児医療施設支援

助成先一覧

2019 年度は 11 件の応募があり、選考委員による審査の結果、9 件の小児医療施設に対して総額 1,168 千円の助成金を交付しました。

施設名	用途	交付額(千円)
医療型障害児入所施設「カリヨンの杜」	ポジショニングマット・遊具・体位交換補助パッド・家庭用プラネタリウム等投影機	139
埼玉医科大学国際医療センター	テレビ・プレーヤー	139
埼玉医科大学総合医療センター	遊具・テーブル	145
埼玉県立小児医療センター	マット・ブルーレイプレーヤー・絵本	136
さいたま市立病院	プロジェクター・周辺機器	148
医療法人社団武蔵野会 TMGあさか医療センター	タブレット端末・ポータブルプレーヤー・絵本	105
社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センター	滑り台・ブロック	123
深谷赤十字病院	タブレット端末	121
医療法人若杉会 南平野クリニック	クッションチェア	112
合計		1,168

※五十音順

医療型障害児入所施設「カリヨンの杜」の様子

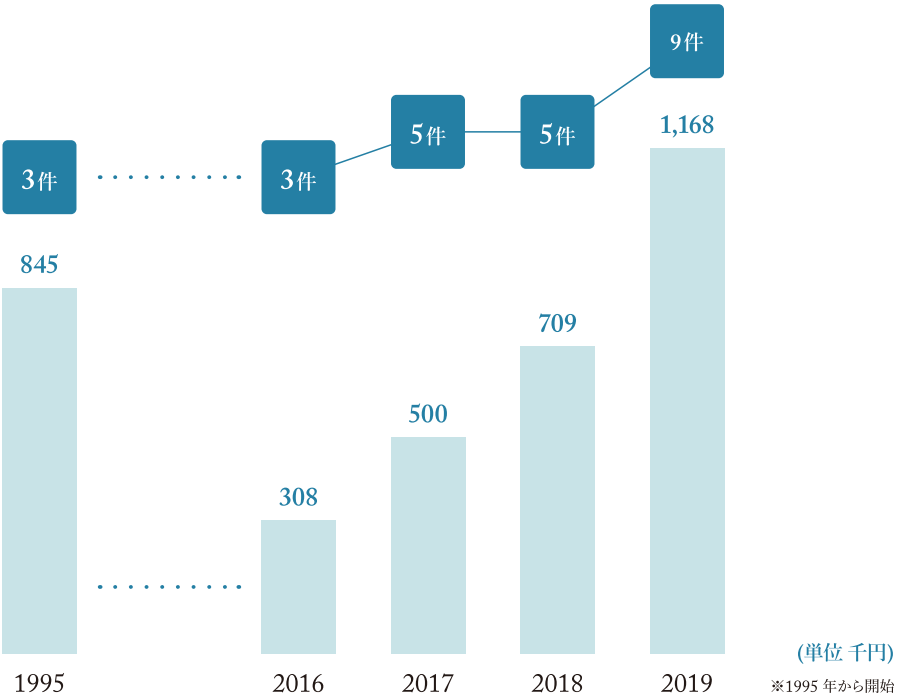


バランスボール

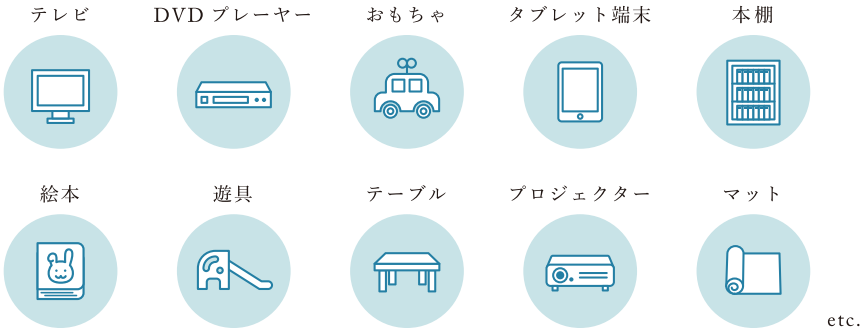


メタルラック

これまでの実績



助成金の使途



7 ドクターによる養護教諭のための出前セミナー

活動報告

2020年2月22日(土)に埼玉県養護教諭会様主催の研修会にて出前セミナーを実施しました。

本事業開始にあたって

養護教諭は児童生徒が健やかに成長できるよう、健康指導や病気・ケガへの対応、また心の問題にも向き合っています。学校で唯一の心身の専門家と言っても過言ではありません。その専門性を高め、多様化する健康課題に適切に対応するため、養護教諭の多くが研修会や勉強会で学びを深めています。最新の医学・医療の知識を得られるのが一番ですが、実際に診療や研究をしている医師や研究者から話を聞くことができる機会は少ないのも事実です。

そこで、当財団がこれまで築いてきた多くの医師や研究者とのつながりを教育現場にも役に立てることができればと思い、内閣府の認定を受け、設立30周年を機に本事業を開始することとなりました。具体的には、養護教諭が開催する研修会などに対して、当財団が仲介役となって、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣します。

2月22日(土)出前セミナーの様子

連日後を絶たない児童虐待のニュース。今回、埼玉県養護教諭会の皆さまから、虐待の早期発見や適切な対応を行うために、養護教諭として知っておくべき事、すべき事についてぜひ学びたいとの声がありました。そこで、奥山眞紀子先生に「不適切な養育を受けた子どもたちが抱えるもの」というテーマで、「虐待の歴史」や「不適切な養育が子どもに及ぼす影響」、「教育現場の役割」についてお話しいただきました。参加者からは、「奥山先生の豊富な知識と経験に基づいた素晴らしい講演で、本当に勉強になった」「養護教諭として“いつでも、何でも話せる存在になる”というのはとても重要だと思った」、「学校全体がチームとなって対応することが大切だと感じた」など多くの声が寄せられました。

セミナー概要

日 時：2020年2月22日(土)13時30分～15時
場 所：埼玉県立浦和高等学校
テーマ：不適切な養育を受けた子どもたちが抱えるもの
参加者：埼玉県養護教諭会所属の養護教諭 約50名



講師

奥山 眞紀子先生
Makiko Okuyama

社会福祉法人子どもの虐待防止センター
理事

2月22日(土)出前セミナーの様子



2020年度 | 経過報告

Interim Report 2020

研究助成

交付者一覧

2020年度は一般枠 101 名・若手枠 71 名の応募があり、選考委員による審査の結果、過去最多となる一般枠 20 名・若手枠 28 名の計 48 名の研究者に総額 60,050 千円の助成金を交付することが決まりました。

[一般枠 20 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
坂野 公彦	奈良県立医科大学生理学第二講座 「ダウン症候群由来 iPS 細胞を用いた胎児肝研究―造血幹細胞の誘導と肝線維症の病態解明―」	1,500
山下 聡	国立研究開発法人国立がん研究センター研究所 エピゲノム解析分野 「小児腫瘍治療により蓄積した微量変異と二次がんの関連」	3,000
内田 広夫	名古屋大学大学院医学系研究科 小児外科学 「構造タンパク質を用いた組織再生促進効果を伴う生体吸収性組織補強材の開発」	3,000
大嶋 宏一	埼玉県立小児医療センター血液腫瘍科 「前癌病変の解析による肝芽腫の発症機序解明と新規治療薬の開発」	2,400
本橋 裕子	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院 小児神経診療部 「筋ジストロフィー患者の病態変化を反映するバイオマーカーの開発研究」	2,400
澤田 博文	三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座・小児科学・麻酔集中治療学 「肺動脈性肺高血圧の学校心電図検診による早期診断法の改善に向けた多施設共同研究 心電図所見と診断前の経時変化の検討」	1,840
戸子台 和哲	東北大学病院総合外科 「先天性代謝異常症の根治を目的とした羊膜細胞による新規細胞移植療法の確立」	2,400
田村 大輔	自治医科大学小児科 「抗インフルエンザ薬耐性ウイルスの出現因子とそのウイルス特性に関する研究」	2,360
三好 剛一	研究開発法人国立成育医療研究センター臨床研究センター企画運営部 「胎児頻脈性不整脈における出生後予後予測モデルの開発」	2,400
水野 健太郎	名古屋市立大学大学院医学研究科小児泌尿器科学分野 「乳幼児期の精巣発育における内分泌環境の生理学的意義の解明 - 精子幹細胞の分化メカニズム解明を目指して -」	2,400
石谷 太	国立大学法人大阪大学微生物病研究所生体統御分野 「小型魚類イメージングを活用したモザイク疾患の発症メカニズムの解明」	2,400
保科 隆之	産業医科大学小児科 「次世代シーケンサーを用いた腸内細菌の網羅的解析結果に基づいた川崎病発症および治療反応性の違いに対する微生物学的要因の検討」	2,400
石井 敦士	福岡大学医学部・小児科学教室 「チック症とトゥレット症候群の分子病態を遺伝学的アプローチで解明する」	2,400
川上 浩司	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 「乳幼児期の口腔衛生状態が学童期の齲歯発生に及ぼす影響の解明―乳幼児健診と学校健診情報による大規模疫学研究―」	1,400

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
小林 剛	国立大学法人大阪大学 微生物病研究所ウイルス免疫分野 「ロタウイルス遺伝子操作系による新規ワクチン開発戦略」	1,050
孫 継英	広島大学原爆放射線医科学研究所・細胞修復制御研究分野 「乳児及び治療関連性白血病に関与する 11q23 染色体転座形成の分子機構の解明」	1,350
鈴木 啓介	東京大学大学院医学系研究科生殖・発達・加齢医学専攻小児外科学 「小児外科疾患への応用を目指した生体内組織形成術 (in body tissue engineering,iBTA) における臓器自律再生メカニズムの解析研究」	1,000
浦山 ケビン	学校法人聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科 「小児白血病発症に関わる環境・遺伝要因の解明～史上最大規模の国際共同研究で挑む～」	1,500
藤岡 一路	神戸大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 「新生児敗血症に対する Trained immunity 誘導に基づく新規治療法の開発」	1,500
小谷 恭弘	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科心臓血管外科学 「大血管転位症の責任遺伝子の同定と発症機序の解明」	1,450
小 計		40,150

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

[若手枠 28 名]

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
中村 勇治	名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野 「極度の進行性神経変性を示す PNPLA8 変異における、脳オルガノイドを用いた新規分子病態の解明」	1,000
川原 勇太	自治医科大学小児科学 「難治性小児急性リンパ性白血病患者に対するがん免疫療法における腸内環境解析を用いた新規バイオマーカー探索」	1,000
塩澤 裕介	日本医科大学研究部共同研究施設分子解析研究室 「任意の標的臓器に対して特異的な遺伝子導入を可能にする新規遺伝子治療法の開発」	1,000
岡崎 敦子	順天堂大学難治性疾患診断・治療学 「非侵襲的検体を用いた小児ミトコンドリア病の新規診断法の確立」	1,000
高野 智圭	日本大学医学部病態病理学系微生物学分野 「先天代謝異常症に対する羊膜上皮細胞治療の開発」	1,000
堀場 千尋	名古屋大学環境医学研究所発生遺伝分野 「出生時マイクロバイオーム解析による新生児敗血症の予測因子・病態解明」	1,000
佐藤 俊平	埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所 「神経芽腫における PRC1 の遺伝子発現制御機構の解明」	1,000
小田切 崇	岩手医科大学微生物学講座 感染症学・免疫学分野 「年齢制限なく小児に適用できる安全かつ有効なアジュバントを用いた新規インフルエンザワクチンの開発」	800
原 朱美	埼玉医科大学医学部生理学教室 「新規遺伝子導入法を用いたβ細胞の分化転換制御機構の解明と新たな糖尿病治療法の開発」	800
末永 雄介	千葉県がんセンター研究所 発がん制御研究部 「MYCN/NCYM の転写制御を標的とした神経芽腫治療法の開発」	800
清水 峻志	東京大学医学部附属病院循環器内科 「先天性心臓弁形成不全症における小胞体ストレス応答の役割の解明」	800
小野田 淳人	名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 「胎児発育不全に伴い成育後に生じる脳発達障害の早期診断技術の開発」	800
中釜 悠	大阪市立大学大学院医学研究科 「マラリア性貧血の病態を規定する宿主・病原体・社会的要因の統合解析」	800
高岡 勝吉	徳島大学先端酵素学研究所 発生物学分野 「糖尿病妊婦のオーダーメイド先制医療を目的としたマウス胎児における大規模リパースジェネティクス解析」	800

氏名	所属機関／「テーマ」	交付額(千円)
矢野 圭輔	鹿児島大学病院救急部 「腸管不全関連肝障害の克服へ向けた GLP-2 の治療効果の実験的研究」	800
久保田 淳	厚木市立病院小児科 「乳児 RS ウイルス感染症の急性期における重症度指標の確立」	500
柿原 知	東京大学医学部医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻小児外科 「プロテオーム解析とメタゲノム解析を用いた稀少小児外科疾患や未熟児腸内環境の病態解明」	500
西山 将広	神戸大学医学部附属病院親と子の心療部 「臨床データベースと患者検体を活用した経時的かつ包括的解析による急性脳症のバイオマーカーの開発」	500
川畑 伊知郎	国立大学法人東北大学大学院薬学研究科・薬理学分野 「小児性ジストニアの分子遺伝学的解析と新規創薬標的の探索」	500
高村 将司	埼玉医科大学病院産婦人科 「慢性子宮内膜炎治療による妊娠合併症発症抑制を目指した萌芽的研究」	500
井上 建	獨協医科大学埼玉医療センター小児科・子どものこころ診療センター 「不登校を併存した概日リズム睡眠・覚醒障害に対する加療プログラムの構築」	500
田原 麻由	東京慈恵会医科大学小児科 「マンガン造影磁気共鳴画像法を用いた脳活動の定量計測法の開発」	500
坂田 真史	国立感染症研究所ウイルス第三部第二室 「風疹ウイルスゲノム複製機構の解明 - ウイルスタンパク質と宿主因子のインタラクトームの可視化からゲノム複製機構を理解する -」	500
井上 隆志	国立成育医療研究センター研究所免疫アレルギー・感染研究部 「冠動脈血管内皮細胞における IVIG 抵抗性シグナルパスウェイの解明から川崎病病態形成機序を考察する」	500
村岡 正裕	独立行政法人国立病院機構 医王病院小児科 「転写因子のアセチル化による顆粒球分化制御メカニズムの解明」	500
前川 大志	愛媛大学プロテオサイエンスセンター細胞増殖・腫瘍制御部門 「コムギ無細胞タンパク質合成系を利用した髄芽腫由来 KBTBD4 変異体の特性解析」	500
菊地 一史	九州大学病院放射線科 「小児脳腫瘍のより高度な画像診断法の確立」	500
内田 琢	国立大学法人宮崎大学医学部機能制御学講座統合生理学分野 「自閉スペクトラム症に関する GluA1 遺伝子変異がシナプスの発達・機能に与える影響」	500
小 計		19,900

※敬称略・所属機関は交付内定時の機関

2 医学会助成

2020 年度 医学会助成

助成先一覧

2020 年度は 13 件の応募があり、選考委員による審査の結果、10 件の医学会に対して総額 4,650 千円の助成金を交付することが決定しました。

学会名	交付額 (千円)
第 18 回日韓中小児腎セミナー 2020	500
第 57 回日本小児外科学会学術集会	500
発達性てんかん性脳症の病態生理に関する国際シンポジウム	500
第 29 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	500
第 24 回日本・韓国・台湾婦人科病理合同会議	150
日本小児麻酔学会第 26 回大会・アジア小児麻酔学会	500
第 40 回日本川崎病学会・学術集会	500
第 32 回 JCIC 学術集会	500
第 4 回日本免疫不全・自己炎症学会総会・学術集会	500
難治性てんかん国際シンポジウム	500
合計	4,650

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催日および開催場所を再調整中の学会が多数のため、交付額のみ掲載

3 ドクターによる養護教諭のための出前セミナー

2020 年度 ドクターによる養護教諭のための出前セミナー

実施予定一覧

2020 年度は当財団ウェブサイトや公式Facebookからの情報発信に加え、埼玉県養護教諭会様の夏季研修会にて事業説明をさせていただきました。全体で 17 件のお申込があり、選考委員による審査の結果、お申込理由・ご希望テーマ・参加予定人数などから、12 件の研修会に対して講師を派遣することを決定しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 3 件が中止となりましたが、他 9 件については実施に向け準備を進めています。

講義テーマ	内容	件数
保健室での救急処置	・子どもによくある怪我や病気の重症度、緊急度の判断基準 ・養護教諭として行うべき応急処置	4
小児期・学童期における頭部外傷	・小児期や学童期における頭部外傷の症状と対応方法	1
子どもの心臓突然死	・学校現場で児童生徒が心肺停止した際の対応方法 ・突然死の予防法	1
子どもの成長障害	・成長障害の症状や主な原因 ・成長曲線の活用方法	1
発達障害を抱えた子どもへの対応	・発達障害の症状や特徴 ・発達障害を持つ子どもへの支援方法	1
思春期の自殺の予防	・思春期における自殺の予防法や対応方法 ・心療内科や精神科との連携のポイント	1
合計		9

※2020 年 5 月末日現在

埼玉県養護教諭会夏季研修会での事業説明の様子



配布したチラシ



新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応について

新型コロナウイルス感染症が拡大する厳しい状況下において、一人でも多くの命を救うため、医師や研究者の方々が大変重要な役割を担っておられることは言うまでもありません。治療や感染予防にご尽力されている方々に、心からの感謝と敬意を表します。そのような中、小児医学・医療・保健をサポートする財団として何かできることがないか検討を続けてきました。その結果、以下2つの活動を行うことを決定しています。

新型コロナウイルス感染症に関する研究助成の実施

新型コロナウイルス感染症の発生や拡大により、大人と同様に、子どもたちの心身の健康にも大きな影響が出ています。子どもたちの健やかな成長を守るためには、小児医学研究に携わる方々それぞれがお持ちの知見を十分に活かし、研究を推進していただくことが重要と考えます。そこで、新型コロナウイルス感染症に関する小児医学研究に対して研究助成を実施することを決定し、5月13日(水)～7月10日(金)に応募を受け付けました。

助成金を交付

上限 200 万円

新型コロナウイルス感染症に関する小児医学研究

奨学金継続給付者への支援強化

アルバイトの休止などで経済的に苦しんでいる学生が増えているという報道を受け、奨学金の継続給付者に対して、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で困っていることについてアンケートを実施しました。結果、奨学生が多くが更なる経済的支援を必要としていることが分かりました。そこで、2020年5月～7月の給付額を月額4万円増額し、月額10万円としています。

奨学金を増額

月額 10 万円

継続給付者

2020年度中の募集について

募集概要

2020年度は以下の事業において応募を受け付けます。詳細は当財団ウェブサイトをご覧ください。



2020年度小児医学川野賞

対象分野	小児医学、ことに基礎医学・臨床医学・社会医学に関する研究
応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 2021年3月31日時点で55歳以下であること (2) 所属する学会もしくは組織の責任者から推薦を受けていること
顕彰	賞状、トロフィーおよび賞金100万円
募集期間	2020年8～10月末頃予定



2020年度小児医療施設支援

応募資格	原則として埼玉県内にある医療施設
助成内容	15万円以内/件
募集期間	2020年8～10月末頃予定



2021年度奨学金給付

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 身体が健康であり、気質および素行ならびに学業が良好である者 (2) 埼玉県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生 (3) 学長、副学長、または学部長の推薦を受けている者 (4) 当財団の定める給付者の義務を果たすことができる者
給付内容	月額6万円以内
募集期間	2021年2～4月末頃予定



2021年度研究助成

対象分野	小児疾患の原因究明・診断・治療・予防等に関する基礎医学的研究、臨床および社会医学的研究 ただし、日本国内の研究機関で行う研究に限る
応募資格	申請者が次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事していること (2) 所属する組織の責任者から推薦を受けていること (3) 2018年度以降に当財団から助成金を受けていないこと (4) 若手枠の場合は、2021年3月31日時点で40歳以下であること
助成内容	〈一般枠〉100～300万円以内/件 〈若手枠〉100万円以内/件
募集期間	2020年9～11月末頃予定



2021年度医学会助成

応募資格	次の要件をいずれも満たすものとする (1) 日本国内で開催する小児医学に関連する医学会であること (2) 開催日が2021年4月1日～2022年3月31日であること
助成内容	50万円以内/件
募集期間	2020年8～10月末頃予定



2021年度ドクターによる養護教諭のための出前セミナー

セミナーテーマや申込資格、申込方法については当財団ウェブサイトをご覧ください！

ご寄附のお願い

「病に苦しむ子どもたちを少しでも減らしたい」そんな想いにご賛同いただき、お力添えいただければ幸いです。
ご寄附は、小児医学研究者への研究費支援や、小児医学を志す医学生への奨学金給付などに使用させていただきます。

- 1 当財団ウェブサイトより寄附金申込書をダウンロードいただき、必要事項をご記入の上、メール添付(PDF)・ご郵送・Faxのいずれかにて以下までお送りください

メール添付(PDF)の方:info@kawanozaidan.or.jp
郵送の方:〒350-1124 埼玉県川越市新宿町 1-10-1 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 事務局宛
Faxの方:049-246-7006

- 2 銀行等よりご寄附をお振込みください

- 3 当財団にてご寄附のお振込を確認後、受領証明書・寄附控除のご案内をお送りいたします

寄附金にかかる税制上の優遇措置

当財団にご寄附いただいた方は税金の控除等、優遇措置が受けられます

個人の場合:ご寄附をされた翌年の2月17日～3月16日に税務署宛に確定申告手続きを行ってください
法人の場合:ご寄附をされた当該事業年度の税務申告の際に損金算入手続きを行ってください

役員・評議員・選考委員一覧

[理事]

理事長
川野 幸夫
株式会社ヤオコー / 代表取締役会長

川野 光世
株式会社川野商事 / 代表取締役

吉野 芳夫
伊藤忠商事株式会社 / 理事

新井 一
順天堂大学 / 学長

桃井 真里子
自治医科大学 / 名誉教授

上池 昌伸
株式会社ヤオコー / 常務取締役

[監事]

杉田 圭三
株式会社 CWM 総合経営研究所 / 取締役会長

原 敏成
武州瓦斯株式会社 / 代表取締役社長

※敬称略・順不同

[評議員]

川野 清巳
株式会社ヤオコー / 相談役

川野 澄人
株式会社ヤオコー / 代表取締役社長

利根 忠博
一般社団法人埼玉県法人会連合会 / 会長
埼玉りそな銀行 / 元会長・社長

村井 満
公益社団法人日本プロサッカーリーグ / チェアマン

高篠 包
高篠・柿沼法律事務所 / 弁護士

豊田 友康
株式会社メディアバルホールディングス / 監査役

※敬称略・順不同

[選考委員]

雨宮 伸
埼玉県社会福祉事業団嵐山郷 / センター長

奥山 真紀子
社会福祉法人子どもの虐待防止センター / 理事

- 梶島 香代
文京学院大学人間学部 / 学部長

河野 陽一
城東桐和会タムス浦安病院 / 院長

坂本 穆彦
大森赤十字病院 / 顧問

城 宏輔
医療法人すずき小児科 / 院長

貫井 英明
山梨大学 / 名誉教授・名誉顧問

野々山 恵章
防衛医科大学校小児科学講座 / 教授

林 泰秀
上武大学 / 副学長

桃井 真里子
自治医科大学 / 名誉教授

山縣 然太朗
山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座 / 教授

- 山崎 章子
埼玉県立浦和高等学校 / 養護教諭
埼玉県養護教諭会 / 会長

山城 雄一郎
順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座 / 特任教授

※敬称略・五十音順

※●はドクターによる養護教諭のための出前セミナー事業の選考委員



公益財団法人

川野小児医学奨学財団

〒350-1124

埼玉県川越市新宿町 1-10-1

Tel: 049-247-1717

Fax: 049-246-7006

Mail: info@kawanozaidan.or.jp

Url: www.kawanozaidan.or.jp

Facebook: <https://fb.com/KawanoZaidan>